尊厳死 かごしま
第 29 号

発行　日本尊厳死協会　かごしま
事務局　〒892-0822　鹿児島市泉町1－15
「公益財団法人慈愛会　事務局」内
TEL 099-223-1131　FAX 099-223-2444
URL　http://www5f.biglobe.ne.jp/~osame/sonngen/index-s.html

日本尊厳死協会かごしま 秋季公開講演会

―― 老人保健施設で感じた人生の最期 ――

日本尊厳死協会かごしま　理事　**黒野　明日嗣**

「介護老人保健施設愛と結の街」に来たのは今からちょうど10年前のことです。尊厳死協会かごしまの会長をされています納先生の教室である第3内科で研究をしていましたが平成12年のスウェーデンへの留学を境に後遺症の残る疾患をみている神経内科医として、生活を診る医者が一人ぐらいいてもいいのではないかと考え、納先生には無理を言いまして大学をやめ、平成15年より「愛と結の街」に勤めることとしました。入所されている方々の平均余命は7－9年と短く、年齢を考えれば当然といえば当然なのですが、その事実をご家族に伝え、我々も一緒に意味のある日々が重ねられるように努力する話をしたつもりでした。ところが、多くの家族が余命についての話しを聞き涙されたのです。驚いて理由を聞きますと、「まさか死ぬとは思っていませんでした」とのこと。医師も、看護師も、介護福祉士もいる施設なので病気にもならないと思われたようです。しかし、冷静に考えれば、人間の死亡率は100%であり、年齢を考えれば、残り少ないことはうすうすわかっていたと思うのですが、改めて言われると、先送りにしていた事実がのしかかって涙になったのだと思いました。

Apple社の社長をしていたスティーブ・ジョブズは来日した際に禅の世界に感銘を受け、「毎日を人生最後の日だと思って生きたなら、いつか必ずそれが正しいと分かる日が来るだろう」という気持ちで毎日を過ごしたといいます。そこで私達は「心豊かな生活を目指し共にはぐくむ触れあいの街」という理念を押し進め「悔いの残らない最期」のために何が必要かを考えました。その結論が自己決定でした。

私が老健に来て最期を迎えた方がいらっしゃいました。老健のスタッフにとっては普通の事のようですが、私は老健に来て初めて亡くなられた方の御前で線香を上げました。病院ではないことです。しかし、葬儀場でご家族とお話する機会を得て、確信しました。自己決定してその後の時間を過ごした家族は大往生と言い、先送りした家族は悔いが残っていました。

例えば、在宅復帰の提案をご家族にして、悩みぬいた結果、無理であると答えた家族は悔いはありませんが、真剣に悩むことなく先送りした家族はその時本当に出来たかどうかはわからないのに家に連れて帰ってあげればよかったと悔やみ、そしてその悔やみはもは

や消し去ることは出来ないのです。（もう試すことが出来ないので）そういう思いを家族にはさせてはいけないと思いました。悔いが残らないようにするためには自己決定していただくしかないという結論に至りました。
では、自己決定をどのように行っていただくのか?

家族にとっては初めての事の連続ですので、選べる選択肢を漏れなく提案することが我々の重要な仕事になりました。漏れのない選択肢から選ぶことによって初めて悔いが残らない自己決定になるのです。

例えば、認知症の方が最後に陥るのは、食べる能力があるのに食べないという意思表示をされ、食事を介助で口に運んでも口を開けない状態になります。どのような方法をとっても食べてくださらない場合、我々は5つの選択肢を家族に提案します。

1）鼻腔栄養（鼻から胃までチューブを入れる）
2）それは長期には鼻や喉が痛いので、胃ろうにする（胃と腹壁に穴を開けてバイパスを作る）
3）カテーテルを心臓のそばまで挿入して食事と同じカロリーを点滴する
4）いわゆる点滴（ただしカロリーを入れられないので主に水分補給になります）
5）病院では選択するのが難しいのですがそのまま何もせず自然に最期を迎える

の5つになります。自然に最後を迎える以外はすべて延命になります。しかし、ここで気をつけないといけないのは延命するかしないかという議論ではありません。残された時間を自然に過ごすのか、ちょっと伸ばすのか、ものすごくのばすのか。持ち時間の問題なのです。そしてもう一つ重要なのが、その時間が本人にとってどういう価値があるかということ。娘、息子、伴侶の立場であれば、少しでも長い時間を過ごしたいと思うのが普通だと思います。でも、本当に大事なのは、本人がどう思うかである、と家族には再三お伝えしています。それによって初めて悔いのない選択になります。これまで、自然に亡くなられた方もいらっしゃいます。胃ろうにされた方もいらっしゃいます。どちらも悩まれて悔いのない選択をされました。私たちスタッフの役割は漏れのない選択肢を考えて提案し、正しく悩んでいただくお手伝いをすることだと考えています。

翻って尊厳死協会に登録されている皆さんはすでにそういう悩みを経て自己決定された方々です。悔いのない最期を迎えるにあたって重要な決断をされたと思います。その決断には当然ご家族のご意見もあったと思います。大事なのは決定することと同じくらい、その自己決定までの過程をご家族と一緒に経ることだと思うのです。一緒に悩むというプロセスを共通して体験することで、自己決定が尊重されると思います。プロセスを大事にしていただきたいと思います。

尊厳死とはひとつの選択肢です。ただ多くの人が、自分の最期についてを考えないまま、その場面に突入していきます。その時一番悩むのが皆さんのことを大事に思ってくれる家族です。その家族を悩み苦しめ、後悔させないためにも自己決定することは重要だと思います。
そういう機会を尊厳死を考えることで提供することは大変重要な仕事だと思うようになりました。
老健での看取りを通じて考えたことを書きました。
これからも家族と一緒に悩める、そんなスタッフといい最期について考えて行きたいと思います。

「尊厳死法案」提出へ

かごしま　理事　中　村　理　恵

2014年１月12日付けの東京新聞によると、尊厳死法制化を考える議員連盟は「尊厳死法案」をまとめ今年の通常国会に議員立法で提出する方針を固めたとの記事が掲載されました。

法案では、末期がんなどに侵され適切に治療しても患者が回復する可能性がなく死期が間近と判定された状態を「終末期」と定義。15歳以上の患者が延命を望まないと書面で意思表示し、２人以上の医師が「終末期」と判定すれば尊厳死を認め、医師は刑事・民事・行政上の法的責任を問われないと定めています。

また意思表示の撤回はいつでも可能とし、本人の意思が確認できない場合には「法律の適用外」としています。

延命措置を望まないという意思表示（リビング・ウィル）の方法としては、尊厳死協会に「尊厳死の宣言書」の登録をするまたは「尊厳死宣言公正証書」を作成する等があげられます。
もちろんこれらの書面をご自身で作成しご家族に預けておく事も可能です。

「尊厳死宣言公正証書」とは嘱託人（尊厳死に関する意思表示をしたい人）が自らの考えで尊厳死を望む宣言をし、公証人がこれを聴取する事実実験をしてその結果を公正証書にするというものです。

現状ではこれらの意思の表明で必ずしも尊厳死が実現するとは限りませんが、本人が延命措置を望まないという事や、延命治療を行わないことについての医師の責任を問わない事についての意思が明確である事が担保されます。

延命措置の中止は命の軽視に繋がるとする反対の意見も多数ある様です。それらの反対の意思と延命措置を望まないとする意思のどちらが正しいという問題ではなく、すべての人々の多様性が認められ、受け入れられ、選択が可能な社会実現のための第一歩として「尊厳死法案」が議論、成立されることを望みます。

※「意思表示」とは社会通念上一定の法律効果の発生を意図しているとみられる意思の表示行為のことを指します。

★役員会の動き★

第１回　平成25年6月22日（土）午後4時20分～5時30分　8名出席

報　告
1. 岩尾理事長より、本部組織と体制について種々伝達がなされた。
2. 九州支部の役員改選により、かごしま納会長は本部理事に就任。
3. 会報28号は9月発行。
4. 秋季公開講演会の件。
5. 平成26年度総会・公開講演会の件。

第2回　平成26年1月25日（土）午後3時～4時30分　6名出席

報　告
1. 今後の会報郵送の件。
2. 出前講座を活発にしていく。
3. 平成26年度総会・公開講演会の件。（会場変更となった）
4. 役員改選。

平成26年度総会・公開講演会のご案内　入場無料

と　き：平成26年5月31日（土）　午後2時（開場1時30分）～午後4時

ところ：鹿児島県市町村自治会館　鹿児島市鴨池新町7-4（県庁前）
（TEL　099-206-1010）

※駐車場はありますが、なるべく公共交通機関をご利用ください。
又は、近隣の公営駐車場をご利用ください。（市鴨池公園駐車場・鴨池ニュータウン駐車場）

講 演

演　題：『在宅での平穏死』

講　師：日本尊厳死協会副理事長　長尾 和宏（ながお かずひろ）

講師プロフィール

長尾 和宏（ながお かずひろ）

84年東京医科大学卒業。大阪大学病院第二内科勤務を経て95年尼崎市に長尾クリニックを開業。外来診療並びに24時間体制の在宅医療まで、“人を見る”総合医療を目指す。
医療法人社団裕和会理事長、東京医科大学客員教授（高齢総合医学講座）、日本慢性期医療協会・理事、日本尊厳死協会・副理事長・関西支部長、医学博士。
最新刊「ばあちゃん、介護施設を間違えたらもっとボケるで！」（ブックマン社2014年2月7日発売）他「平穏死・10の条件」、「抗がん剤・10のやめどき」「胃ろうという選択、しない選択」「平穏死という親孝行」等著書多数。
個人ブログもトップ人気となっている。

お問い合わせ先

日本尊厳死協会　かごしま事務局
TEL 099-223-1131　「公益財団法人　慈愛会　事務局」内（小森園）